

# 津波復興拠点整備事業まちづくりワーキンググループ 第1回 議事要旨

平成24年10月30日(火) 午後1時30分～3時45分

市役所 1階 第一会議室

1. 開会 (事務局)	
2. あいさつ (副市長)	
3. 資料説明 (事務局)	
4. 意見発表	
委員名	意見
伊勢徳雄委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の中心地、商工業、イベントの中心が打撃を受けた。市の顔となるのは大船渡町。仮設店舗ができて、商業をがんばってくださっている。新たなまちを作る中で、震災前以上に賑わいある中心街になってほしい。</li> <li>拠点エリアが中心の議論となるが、商業の中心地として、区画整理エリアやもっと広いエリアで考える必要がある。</li> <li>45号からの車の動線、既存の道路とのつながりも考える必要がある。</li> </ul>
伊東 修委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街の要望をお願いしていく立場。商店街の広さと位置、事業再開の早さの説明を受けて持ち帰り、商業者等と話し合っていく。</li> <li>津波復興拠点のたたき台に示されている商業施設用地のエリアは、旧須崎地区の3分の1の面積しかない。飲食店等が被災前は50数件あったが、入りきらないと思う。商業者の場所として、もう少し広く確保できないか。</li> </ul>
伊藤怜子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災地の赤ちゃん、お母さんへの支援、サービスがいきわたらないので、支援が必要。</li> <li>復興の地で赤ちゃんが生まれ、健やかに育つことが大事だと思う。これを支えることでやさしいまちになり、希望にもなる。</li> <li>子育て支援サークルが立ち上がっているが、ネットワークでつながる過程が必要。行政に子育て支援課を設けていただきたい。</li> <li>未就学児支援は多くあるが、赤ちゃんへの支援は少ない。子育て支援が連携できる子育て支援施設を入れてほしい。</li> </ul>
久場清弘委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>商工会議所が7月に大船渡駅周辺の商業集積の再生の検討会を立ち上げ、一定の結論を得た。商工会議所の意向を拠点整備に反映させたい。</li> <li>土地区画整理事業は再建にかなりの時間を要する。商業者は、一日も早い事業再開への思いが強い。早期再開の点では、津波復興拠点整備事業はひとつのチャンス。特別な配慮を行政に期待する。</li> <li>被災前から人口減少があり、厳しい経営環境にある。身の丈にあった集積規模をめざすべき。過大投資で、後になって維持に苦しむ事態はさけるべき。</li> <li>集客力を高めるため大型店を核とした集積をめざすべき。遠くからも集客するためには大型駐車場も必要。中心市街地では徒歩客が中心であったが、駐車場確保、車客を対象とした土地利用が必要。</li> <li>経営の早期再開が可能となるための条件として、土地の買取を前提とした事業、国の支援事業であることから、効果的な役割を期待している。</li> <li>地権者、土地利用を担う事業者の協力が必要である。</li> <li>商売する人の支えとなる周辺住民が戻ってくる土地利用になるとよい。働く場所も必要である。</li> <li>商業と産業の再生について、津波復興拠点整備事業が効果を発揮し、波及していくことを期待している。</li> </ul>

熊澤正彦委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大船渡地区は高齢者等にとって立地条件がよい。この場所でいかに地域に密着し、自立した生活ができるかを考える。</li> <li>・ 観光客の集客に対し、3.11の記念館があるとよい。商業・観光は集客が大事で目玉施設が必要である。</li> <li>・ 高齢者等が集まる施設を、津波が来た場所に設置することはどうなのか、意見交換をしたい。</li> </ul>
西郷真理子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衰退傾向の課題解決が復興のポイントである。</li> <li>・ 住民、住みたい人が主体となること、歴史と自然環境を活かすことで、魅力的な賑わいあるまちになる。</li> <li>・ 都市軸、メインストリートがシンボルとなる。軸線を明確にすると、都市の骨格がはっきりし魅力的になる。メインストリートに機能が集約することで中心性が生まれ、魅力となる。</li> <li>・ 波及効果が生まれ、周辺をプラスの状況にしていくことが望ましい。</li> <li>・ エネルギー、再生エネルギーの問題もあり、この地区でも、環境未来都市の実現に向けた可能性がある。</li> </ul>
佐々木輝昭委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸の消防屯所が流失し、消防力、防災力は低下している。市全体の安全・安心のための防災関連施設が急務である。</li> <li>・ 先進性をとりいれたまちづくりが必要。</li> <li>・ ヘリポートが設置される案はよいことである。ヘリコプターの総重量は5 tなので、それに合わせた整備となるが、ドクターヘリはもっと軽い。</li> <li>・ 防災ヘリは、大船渡病院駐車場、盛川右岸、ドクターヘリは学校校庭に離着陸できる。ヘリポートが増えるのはよい。</li> <li>・ モデルケース、住んでみたいと思うまちづくりが必要</li> </ul>
志田 寿委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人が死なないこと」が大前提。</li> <li>・ 東日本大震災は、想定外の災害であった。被災後、20分間活動した後は退避するという消防団のルールができた。</li> <li>・ ハード面で整備しても、それ以上の災害が来ないとは言えない。命は自分で守る防災教育、訓練など、ソフト面の防災も必要。</li> <li>・ 道路の幅員、避難路の幅員は広くしてほしい。東日本大震災の時、午後3時頃には、県道には車がなかったが、国道が渋滞した。車を置いて人だけ移動したこともあり、迂回できる場所、幅員があるとよい。</li> <li>・ 3階建ての津波防災施設であるが、人員配置はするのか。水門閉鎖も遠隔で行うこととしているので、津波の来るところには、無人で操作できる設備を設けるほうがよい。</li> <li>・ 土地を収用してもらえらるなら、早くしてもらったほうが、将来の生活再建が可能となる。</li> </ul>
白土美都委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土地所有者の土地利用に関する意向調査結果によると、住みたいと回答している人が4割弱ということで、驚いている。</li> <li>・ 震災後は盛町から南には行かなくなった。盛町から北側で、スーパー、学校、病院、飲食店もあり、生活できる。被災したところには行ってない。昼間でも怖いと感じる。</li> <li>・ 立根町に住んでいるが、陸前高田市の方や事業所を再建している人も多く、人口が増えると思う。</li> <li>・ YSセンターには、プールやお風呂がある。釜石市の人から利用問い合わせもあり、利用者が増えている。住宅以外の施設の復旧が後回しになっている。</li> <li>・ 安心して利用するには、安全で魅力的でなければならない。そういった施設整備が必要。</li> </ul>
鈴木宏延委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの方が亡くなり、事業所が流失した。津波による犠牲者をださないまちづくりが必要。</li> <li>・ 防災機能が高い、安全安心のまちづくりが不可欠。</li> <li>・ 住む人がいないのでは意味がないので、住む場所、職場があり、買物ができ、魅力的な楽しめる場所がある、住民が楽しめるまちとして復興するとよい。</li> <li>・ 防潮堤は7.5mで復旧するが、東日本大震災クラスの津波では浸水する。高齢者が集まる施設イメージもあるため、どれだけ避難さ</li> </ul>

	<p>せられるかが課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想定する避難者を収容する施設の検討も必要であり、車を持っている方は車で避難するため、避難路の確保も重要な要素。</li> <li>・ 復興の象徴となる中心市街地はまちづくりに必要。</li> </ul>
炭釜秀一委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大船渡駅を中心とした賑わいが必要。交流人口の増大が図られることが必要。</li> <li>・ 商店街の早期復興、世代、市内外を問わない複合的な交流を進めるために、季節を感じる公園、シンボルタワー、観覧車、楽しいと思える施設整備、イベントの開催、ジオパーク構想のジオサイト、観光資源の発掘を考えていきたい。</li> <li>・ 子ども、高齢者に利用しやすい、防災機能を備えた拠点施設の整備が進められ、創造的に復興できるように、他地域への先行事例としてよいものが残せるようにしたい。</li> </ul>
武田貴子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人倍率が1.26倍になった。以前より仕事が発生しているが、働く人が減っている現状もある。産業を盛り上げると同時に、人を呼び戻すことが重要である。</li> <li>・ まちづくりの拠点となり、活気のあるまち、住んでいる人が魅力を感じるまちになれば、人もやってくる。</li> <li>・ 多様な働き方が必要であり、新たな枠組みや高齢者が生きがいを感じる活動のできる施設があれば、活気がでる。</li> <li>・ 大船渡市は海、山があり、子育てにはよい環境のまちである。自然と一緒に暮らしていかないと、大船渡には住めない。</li> <li>・ 体育館など子どものための遊び場が必要であるが、有事の際に避難できる場所がすぐにわかるようなまちづくりができないと、観光客もやってこない。</li> </ul>
新沼信男委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街並み景観が重要である。</li> <li>・ 駅西側道路と東側道路を接続させる意見もあったが、JRとの関係がありうまくいかなかった経緯がある。</li> <li>・ 拠点が完成したら、大船渡の賑わいが創出できるかどうかは難しい。観光客誘致が必要。観光を産業と捉えた仕掛けが必要。震災前もまちの中に見るものがなく、観光客は碁石海岸に行ってしまう。物産館は重要である。</li> <li>・ 道路は幅員を広くしたほうがよい。お祭りの好きなまちで、海のお祭りは20数万人を超える人出となる。津波がきた場合、お祭りに来た人をどう誘導して避難させるかが課題。夜間災害がおきていたら、もっと犠牲者は多かったと思う。</li> </ul>
平野智美委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2回目の健康調査を実施している。被災した方の関心は健康ではなく、暮らしがどうなっていくかで、保健師が回答に困っている。</li> <li>・ 子育て中であり、末崎町に住んでいるが、非常に不便。大船渡町にスーパーマーケットが開店するまで、買物も不便だった。夢商店街、屋台村など活気も出てきているが、余震や津波警報が出ることもあり、ゆっくりできずに、足が向きにくい。防潮堤は頑丈になると思うが、安全面を確実にしないと、人は集まってこないと思う。</li> <li>・ 道路、避難経路が重要。</li> <li>・ 福祉施設は何かあったときに、問題になる。あるのはよいが、有事の際を考えて拠点を整備すべき。</li> <li>・ 高齢者に住みやすいのはよいが、子育て支援施設、障がい者の施設も整備しないと、住みたいと思わない。全ての人が住みやすいまちづくりが重要。</li> <li>・ 以前の大船渡市は、人にやさしいまちづくりをしていたとは言えない。弱い人の立場でまちづくりを進めていくことが、住みやすいまちづくりにつながると思う。</li> </ul>

5. 意見交換	
■質問への回答	
佐藤勝幸委員	<p>【図矢印について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マグネットエリアとして機能することを示すため、図中に矢印を入れた。緑色の破線は、歩行者動線を意識した。青い線は、海側の自動車の動線を伝えるための矢印である。</li> <li>・ 道路イメージ図とあわせて見てもらうと、市全体の視点から、当該地区が位置づけられていることを示していることがわかる。</li> </ul>
事務局	<p>【道路幅員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画道路は20m幅員の整備を検討している。</li> </ul>
(1) オブザーバーからの意見・助言（各委員からの意見発表で得られたキーワード）	
佐藤勝幸委員	<p>【復興への思い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心部としての魅力ある場所にしたい。</li> <li>・ それには安全が必須条件である。</li> </ul> <p>【土地利用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全を土地利用の方向性としてどうするか。</li> <li>・ 避難が確実にできることが重要で、道路の整備が柱。</li> <li>・ 夜間も安全に避難できる、観光客の避難、様々な方の安全性を確保することが魅力、賑わいにつながる。</li> <li>・ 道路をまちの「顔」、まちの骨格となるものとして位置づける。人、歴史、自然環境が重要な要素。</li> </ul> <p>【津波復興拠点に期待する役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流人口拡大に向けた観光施設の整備が必要、という意見があった。このような施設が雇用促進、観光振興につながるようにしたい。</li> <li>・ 配置や規模などを具体的に盛り込んでほしい、という意見があった。</li> <li>・ 導入したい機能としては、子どもの施設、未就学児支援が不足しているという指摘があった。</li> <li>・ 高齢者の避難の難しさの指摘は、安全性確保と表裏一体。十分に考えながら、高齢者等の施設の適切な機能配置を検討していきたい。</li> <li>・ 復興のスピードを、早期再建、事業がスピードアップのために導入されていることから、検討していきたい。</li> <li>・ 拠点から波及させて、市全体、気仙地域への波及効果を高めることが、共通認識として捉えられている。</li> </ul>
(2) 補足・修正意見等	
久場清弘委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 核として大型店を誘致したいという商工会からの意見があるため、検討してほしい。</li> </ul>
西郷真理子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全施設を市が所有するわけではないので、事業主体、マネジメントは、これが終わった後で検討するのか。</li> </ul>
角田副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画決定に必要な要素を、検討してほしい。併行して行うところもあるため、意見をもらいたい。</li> </ul>
西郷真理子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この範囲全体をマネジメントするためには、市、商業者、企業がその仕組みを作っていくことが重要。そこに市民が入ると、なお、よくなる。</li> </ul>
新沼信男委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電柱のないまちも検討する必要がある。</li> <li>・ 夜間の避難に備えて、ソーラー灯も所要所に設置したほうがよいと思う。</li> </ul>
佐々木輝昭委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3階以上の建物ははしご車対応となるが、電線、電柱が消防活動の支障になる。</li> </ul>
伊東 修委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業者、飲食店、理容美容関係等、大船渡で再開したい人も多い。拠点として整備する区域が狭いという理由である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い人の起業支援、自分では資金がない人の起業がなんとかならないか、NPOからも、大船渡・陸前高田に残りたいが方法はないか、という相談がある。どこかにそういう人たちを配置できるように考えられないか。人を増やすことにつながる。商店街の事業者は60歳代以上が多いので、若い人が出店できるシステムを作ってほしい。</li> </ul>
角田副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロットがどのくらいかが心配というご意見なので、議論として切り離すことはできないだろう。どうやって意見集約するか、考える必要がある。</li> </ul>
海山課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設と民間施設があり、両方を一度に議論することには、難しい面がある。このワーキングも、部会を設定して進めたほうがよいかどうかも、決めかねている。拠点の方向性は決めていきたいと思っている。</li> </ul>
西郷真理子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>100%公費では整備できないので、民間や、経産省など他の省庁の制度をうまく活用することが必要。このまちで、リスクをもっても店を出そうと思う人を支えるしくみづくりが大事。</li> </ul>
<b>6. 総括</b>	
事務局	(キーワード整理について、委員に確認し、了承を得た。)